

## 「平成25年度山地災害から地域を守る集い」開催結果の要旨

- 1 日 時 平成25年6月29日(土) 13:30~16:00
- 2 場 所 三原市本郷南六丁目 「本郷生涯学習センター・にいたかホール」
- 3 参加者 150人 (三原市内110人、県内参加約40人)
- 4 内 容

### ○主催者あいさつ 一般社団法人広島県森林協会 常務理事 小松 光二郎

本日ここに、三原市さんのご協力を得てこの集いを開催し、広島大学大学院の海堀教授によるご講演、広島県担当者による治山事業の紹介、地元自主防災会の取り組み事例報告など、皆さんに役立つ情報が提供できるものと考えております。また、当協会は普段は治山・林道の測量業務を行っていますが、公益目的事業として自主防災組織への支援を行い、昨年度は11団体、今年も14団体に助成を予定しています。今後もこのような事業を継続して参りたい。

### ○開催地元あいさつ 三原市長 天満 祥典 様

県内各地から多数の皆様のご参加に感謝すると共に、心から歓迎いたします。

本市では、治山事業・砂防事業・急傾斜地対策事業などのハード事業とともに、ハザードマップ作成や自主防災組織の結成育成支援などのソフト事業の実施など、地域と行政が一体となった被害防止対策の構築に取り組んでいます。本日のご講演や報告について、十分に理解と関心を深めていただき大きな成果に結びつくことを願っています。

### ◎講 演 「近年の災害から学ぶ土砂災害発生のメカニズムー被害最小限に抑えるためには」

広島大学大学院総合科学研究科 教授 海堀正博 様

- ・三原市の総合防災ハザードマップは、山地災害、洪水、津波などの危険地の情報が一体的に表示されており、非常に分かりやすく素晴らしいものです。
- ・近年の広島周辺における土砂災害の発生と土砂移動の特徴について
- ・三原市本郷の10年間の雨量観測データを分析すると、時間雨量の最大は55mmです。
- ・雨の降り方との関係では、ある程度の先行降雨とそれに続く強雨が土石流発生に繋がりがやすい。県南部の花崗岩類地質の分布地域では100mm前後を超えると崩壊が増え始め、200mm前後を超えると著しく増加。さらに、その後の30~50mm/h前後以上の強雨で土石流も集中発生。
- ・四国や九州に比べ、少なめの雨量でも土砂災害の発生危険性が高いことを意識しておこう。
- ・一昨年紀伊半島南部を襲った台風12号による豪雨の被害箇所をグーグルアースで鳥瞰してみると、誘因となった雨量が千数百mmを超える大雨となっていたため、河を挟んだ崩壊土砂が対岸に大きな被害を及ぼした例や、それよりもっと大きな崩壊を引き起こした箇所も見られました。
- ・林相との関係では、幼齢林・若齢林、伐採跡地、松枯れ地などでは発生しやすい。
- ・根による補強効果については、ある程度の深さまで期待可能。成長状況と密接に関係しています。成長したアカマツでは根の深さは3mくらいで一般に認識されているものより浅いが、しっかりと捉えています。過小評価することはないが、過大評価も禁物です。
- ・2010年庄原豪雨災害では、流紋岩地質の所で累積雨量270mmがあった後に、時間雨量数十mmの豪雨が3時間も続き、植生を問わず多くの山腹崩壊が局地的に発生しました。
- ・土砂法制定のきっかけとなった平成11年の6.29広島土砂災害当時の問題点としては、多くの人々が土砂災害危険箇所に住居していたこと、避難勧告や避難指示などの遅れ、ハード対策の不十分、ハザードマップの公開に消極的、アメダス以外の降雨観測値が住民には非公開であったことがあげられます。

### ・土砂災害防止のための対応策について

・事前にどの位の雨が降っていたかは極めて重要、誘因が地震でも火山活動でも地盤の含水状態が大事、多量の先行降雨があった場合には非常に規模の大きな流動性の高い現象も起きえます。阪神淡路大震災では、前年からの少雨で地盤が固くなっており、山腹崩壊が少なかったのです。

### ・自然災害と防災の要点

・広島県気象ウェブサイトは、6.29災害後に雨量観測データを総合的にまとめ、410地点のデータを見ることができ全国的に見ても進んでいる。

・自然災害の規模は自然現象の規模とは必ずしも比例しない。人間の対応の如何によっては自然災害の規模を小さくすることもできれば、大きくしてしまうこともあり得ます。防災とは、自然現象が大きな自然災害に至らないようにするための行為、命を守る行為、復旧・復興まで含むもの。

・過去の災害からの教訓も大切に、かろうじて難を逃れた人による体験談には(言い伝えや地名にも)貴重なヒントが多く含まれている。

災害は同時多発的に生ずる →SOSは届きにくい

樹林や防災施設があっても災害が起きうる →防災機能や効果には限界がある

自分が災害とは無縁であると思いきまない

生きたい、生かしたい、助かりたい、助けたい、という多くの人の気持ちが防災に繋がる

→自然に親しみ、異常時には前兆が感じ取れるよう、豊かな生き方をめざそう!

## ◎山地災害防止への取組事例の報告

### ○広島県の治山事業について 広島県森林保全課治山グループ 主任 山野 仁士 様

・治山事業の工種を分類すると、溪間工事、山腹工事、森林整備に分かれる。

溪間工事は治山ダムや水路工などの構造物を設置して、溪流勾配を緩和し土砂流出を抑える。

山腹工事は土留工、柵工、筋工などで、急斜面・山腹崩壊地の侵食を防止する。

森林整備は、山火事跡地等の復旧のため、階段工、植栽工などにより植生を回復させる。

・過去の広島県内で発生した災害の検証と復旧状況

平成11.6.29災害では、広島市西部の住宅後背地で多くの崩壊が発生

平成23.7.17庄原豪雨災害では、大戸地区の狭い範囲で局地的豪雨により山腹崩壊が発生

・自助、共助、公助の考え方で取組む。

### ○自主防災組織の取組み 三原市高坂町防災会 副会長 先小山 譲 様

・三原市高坂町の地域紹介では、世帯数253・760人、60歳以上割合が40%と高い。名刹「仏通寺」や高坂自然休養村などの観光施設がある。

・4年前に町内9地区が防災組織を立ち上げ、110人体制で取組んでいる。

・昨年の防災訓練では大地震発生を想定し、一次避難所から二次避難所への移動訓練等を実施。倒壊家屋からの救出、消化訓練、AED、炊き出し訓練など

### ○自主防災組織の取組み 三原市久井町江木区町内会生活安全推進協議会長 岡 富雄 様

・三原市久井町江木区は世帯数270で、地形はなだらかで災害が比較的少ない地域ではあるが、平成18年に防災組織を立ち上げ活動している。

・元になる地図に調査確認した危険箇所、避難ルートを書き込み、地域独特のハザードマップを作成し避難訓練に活用している。

・ハザードマップは地域内の各戸に配布し、家族の避難場所を書き込んで確認している。